

令和3年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

葉山町教育委員会

目 次

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 算数
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
 - ア 教科に関わる内容について
 - イ 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について
 - エ ICTを活用した学習状況について
 - オ 新型コロナウイルス感染症による児童の学習への影響について



3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 数学
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
 - ア 教科に関わる内容について
 - イ 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について
 - エ ICTを活用した学習状況について
 - オ 新型コロナウイルス感染症による生徒の学習への影響について

1 調査の概要

令和 3 年 5 月 2 7 日に実施した「令和 3 年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：令和 3 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領 (文部科学省))

(2) 調査の方式

悉皆調査 (対象は小学校第 6 学年、中学校第 3 学年)

- 【参考】 *平成 1 9 年度～平成 2 1 年度：悉皆調査
*平成 2 2 年度～平成 2 4 年度：抽出調査 (※平成 2 3 年度は震災で中止)
*平成 2 5 年度～令和 3 年度：悉皆調査 (※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の臨時休校で中止)

(3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※ 5 月 2 7 日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	313	70, 576	994, 101
中学校	242	58, 956	903, 253

○集計学校数

※ 5 月 2 7 日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	848	18, 857
中学校	2	401	9, 320

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

(4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。
- ・実施教科が小学校が国語、算数の 2 教科、中学校が国語、数学の 2 教科であり、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であること。
 - ・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(用語説明)

- 国語、算数、数学ごとの平均正答率は、それぞれの教科の平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。
- 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率。

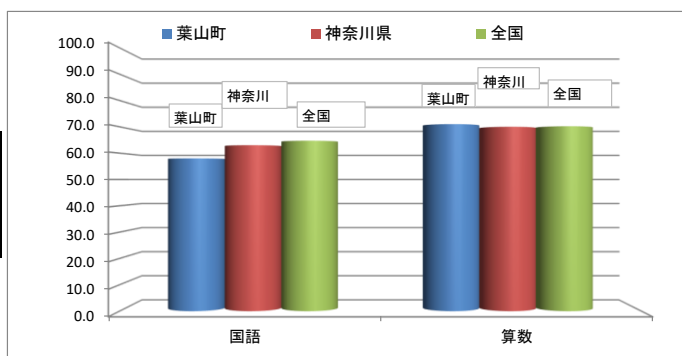
2 小学校に関する調査結果の概要

(1)教科に関する調査の結果

ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	58.0	63.0	64.7
算数	71.0	70.0	70.2



- ・国語の調査結果は、全国・県を下回る平均正答率である。
- ・国語における記述式の問題では、平均正答率が全国・県を下回っている。
- ・算数の調査結果は、全国・県の平均正答率±5%の範囲内であるため、ほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	・「話すこと」「聞くこと」の領域における多くの問題で、全国・県とほぼ同程度の平均正答率であるが、「言語の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」の領域においては、全国・県を下回っている。 ・「言語の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」の領域では、多くの問題で無回答率が全国・県を上回っている。
話すこと 聞くこと	・「話すこと」「聞くこと」のいずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。
書くこと	・「書くこと」のいずれの問題も全国・県の平均正答率を下回っており課題があると考えられる。 ・「書くこと」のいずれの問題も無回答率が全国・県を上回っており課題があると考えられる。
読むこと	・「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」問題では、80%を超える平均正答率で、全国・県を上回り、良くできたと考えられる。しかし、「目的を意識して、中心となる語や文章を見付けて要約する」問題では、全国・県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。
言葉の特徴や 使い方に関する 事項	・「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」問題では、90%を超える平均正答率で、全国・県を上回り、良くできたと考えられる。しかし、それ以外の項目では、どの問題も全国・県の平均正答率を下回っており課題があると考えられる。特に、「文の中における主語と述語との関係を捉える」問題や「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題の正答率は低い。 ・「漢字を文の中で正しく使う」問題では無回答率が全国・県を上回っており課題があると考えられる。

今後の取組の 重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・作文問題では、与えられた条件をもとに文を書くことが求められており、論理的な表現に慣れると同時に、自身の考えを効果的に伝えるために、文の組立を考えながら書く指導をより重視していく。 ・自分の主張を明確に伝えるためには、自分が主張したいことは何か、それを支える理由や事例は何かを明確にさせ、筋道を立てて自分の考えを述べる事が出来るように指導する。 ・日常生活の中で、学習した漢字が適切に使うことが出来るように、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるように指導するとともに、漢字を使った文や文章を書く機会を設定する。 ・要約した文章を書くために、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明できるように指導する。また、読み手の目的によっては、内容の中心となる語や文は異なってくることに気づかせる。 ・図表やグラフなどを含む文章を読む際には、文章中に用いられる図表やグラフなどが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにしたうえで、文章と図表やグラフなどの関係を捉えて読むように指導する。また、図表やグラフから必要な情報を見つたり、見つけた情報を言葉に表したりする指導を行う。 ・主語と述語が適切な係り受けの関係になっていることが、相手に正確に伝える上で重要であることに低学年の内から気づくことができるようにする。また、日常的に主語が何かを意識して文章を書かせるように指導する。 ・修飾語には、動きを表す語句を詳しくする場合とものや人などを詳しくする場合があることを理解させることが重要である。そのためには、修飾語を加えて文を詳しくしたり、どの語句を詳しくしているのかははっきりさせたり、気づかせたりできるようにする。
--------------	---

ウ 算数

結果の概要	- どの領域・観点とも全国・県とほぼ同程度の平均正答率である。 - 記述式で回答を求められる問題では、平均正答率が全国・県も同様に低い傾向にあり、課題があると考えられる。
数と計算	「除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる」問題では平均正答率が82.1%で良好であったが、「基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」問題では、全国平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。
図形	「図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積を求め方と答えを記述できる」問題では、平均正答率が全国・県も同様に低い傾向にあり、課題があると考えられる。
測定	「条件に合う時刻を求める」問題では、平均正答率が91.1%でよく出来たと考えられる。
変化と関係	「道のりと時間の関係について考察する」問題や「速さと道のりを基に時間を求める式に表す」問題では80%を超える平均正答率があり、理解が定着していると考えられる。
データの活用	「棒グラフから読み取る」問題では、90%を超える平均正答率で、理解が定着していると考えられる。「複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」問題では、平均正答率が全国・県も同様に低い傾向にあり、課題があると考えられる。
今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 - 除法の場面では、何が被除数で、何が除数かを捉えて立式できるように、具体物を操作したり、絵や図に表して指導する。 - ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを理解させるには、基準量を1としたときに比較量がいくつに当たるかという意味について理解できるように指導する。そのためには、「はした」の部分が基準量のいくつに当たるかを小数の学習の時に1を10等分して0.1をつくったことを振り返ったり、テープ図などを用いて指導したりする。 - 複数のデータについて、項目の割合を比較するためには、データの種類や項目を考えさせ、各項目の特徴や傾向を読み取る指導をする。また、目的に応じて適切な表やグラフを選択させ、作らせる指導をする。 - 図形の面積の学習では、図形を構成する要素などに着目させ、図形の構成の仕方を捉えさせる指導をする。その際に、面積を求めようとする図形の辺の長さや位置関係、分かっている図形の辺や長さの位置関係を捉え、筋道を立てて説明できるようにする。

(2)児童質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞ 「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」、「ICTの活用」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。また、新型コロナウイルス感染症による児童への学習への影響についても児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、主に小・中共通の設問を抽出し分析しています。
--

ア 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	47.3	59.7	58.4
②	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.8	85.2	84.2
③	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いて表現を工夫して書いていたりしていますか。	73.5	72.3	71.6
④	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。	79.6	74.9	74.3
⑤	算数の勉強は好きですか	69.0	67.3	67.8
⑥	算数の勉強は大切だと思いますか	93.3	94.0	93.8
⑦	算数の授業の内容はよく分かりますか	85.3	84.3	84.6
⑧	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	78.9	75.5	73.9
⑨	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	84.3	81.8	82.7
⑩	英語の勉強は好きですか	57.2	67.4	68.3
⑪	5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	73.5	73.1	74.6
⑫	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか	54.0	48.4	44.4
⑬	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	82.5	79.1	81.1

課題及び改善点	多くの設問において全国・県と同様の回答率だったが、「国語の勉強は好きですか」「英語の勉強は好きですか」の回答率は全国・県より10ポイント近く低く、国語においては学習に関する平均正答率も低い。児童が学ぶことに興味・関心を持ち、意欲を持って取り組めるように手立てを工夫改善することが必要である。そのため、振り返りシートを活用して、児童が一層充実感を得ることのできる学習のあり方や学習過程の改善が求められる。 一方で、「英語を使う機会がありましたか」の設問では、全国・県を上回る高い回答率を示している。葉山町が持つ地域性がうかがえる。また、「自分の考えがうまく伝わる様に発表していたか」、「仲間と話し合う活動が自身の考えを深めたり、広げたりできたか」との問いにはとても高い値を示していた。 葉山町が話し合い活動や表現活動を重視してきた成果と思われる。
---------	---

イ 学びに向かう力に關わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	80.5	76.7	76.9
②	将来の夢や目標を持っていますか	78.2	77.9	80.3
③	難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか	69.3	69.2	70.9
④	人が困っているときは、進んで助けていますか	90.4	88.2	88.7
⑤	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.3	95.2	95.5
⑥	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.8	96.4	96.8
⑦	学校に行くのは楽しいと思いますか	82.1	83.2	83.4
⑧	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	66.5	70.1	70.3
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	73.8	70.8	70.1
⑩	友達と協力するのは楽しいと思いますか	94.9	93.8	93.9
⑪	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	57.5	54.7	52.4
⑫	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	77.3	78.3	78.2
⑬	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	70.6	65.6	63.5
⑭	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	83.7	77.9	78.8
⑮	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	79.8	77.1	78.3
⑯	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	84.0	80.0	81.4
⑰	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	38.7	64.3	70.3
⑱	解答時間は十分でしたか（算数） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	75.1	82.1	81.7

課題及び改善点	「解答時間は十分でしたか」の設問では、国語も算数も全国・県に比べて回答率が低く、不十分と答えた児童が多い。このことと記述式の問題の平均正答率の低さ及び各教科の無回答率との関連を検証するとともに、限られた時間の中で必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめて表現する力を育むことが求められる。 自己肯定感・規範意識・思いやりに関連する設問では全国・県と同様に高い回答率を示している。また、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」との設問では、「そのように思う」と肯定的な回答をした児童が全国・県よりも上回っている。これらの思いが学びに向かう原動力となっていると考えられる。今後も児童のこれらの思いを生かして、より一層充実した学習活動の工夫改善に努めていくことが大切である。
---------	--

ウ 家庭学習・生活習慣に關わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	93.6	94.8	94.9
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.9	80.0	81.2
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.2	89.6	90.4
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	42.2	36.0	37.4
⑤	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（一昨年度74.9）	74.7	72.6	74.0
⑥	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	56.9	59.2	62.5
⑦	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	50.4	57.3	61.0

課題及び改善点	本年度も昨年度に引き続き、朝食の喫食率や就寝・起床など、基本的な生活習慣については良い傾向を示している。読書の習慣や新聞を読む習慣に関する回答率も全国・県よりも高い。さらに推進したい。 また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問では一昨年度と同様の回答率を示したが「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問では1時間以上と回答した児童が全国を下回っている。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問でも、全国・県を下回っている。家庭での学習については、引き続き計画的に取り組めるように学校と家庭との連携を図り、定着させていくことが大切である。 一方で、「1日の読書時間」については、県・全国を大きく上回る値を示しており、委員会活動での児童自身による本紹介やPTAの協力による読書活動推進の成果の表れと思われる。
---------	---

エ ICTを活用した学習状況について

(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合の合計	65.8	72.0	70.1
②	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか ※2時間以上と回答した割合	45.4	48.7	49.4
③	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週に1回以上」と回答した割合の合計	17.9	31.8	40.1
④	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度しようとしていますか ※「ほぼ毎日」「週に1回以上」と回答した割合の合計	48.2	33.6	39.0
⑤	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計	92.3	94.0	94.5
⑥	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか ※1時間以上と回答した割合	20.8	19.6	19.9

課題及び改善点	「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の設問では、全国・県より使用率が低い。一人一台のタブレットの活用開始が今年度からであったことも原因の一つであると考えられる。 一方で「コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使っていますか」の設問では、全国・県を大きく上回る結果となっており、児童の授業でのICT活用への関心が高いことがうかがえる。ICT機器の充実とともに一層の授業での活用を図る必要がある。 また、コンピュータなどのICT機器をつかうのは勉強の役に立つと思っている児童は、全国・県と同様に高い回答率を示したが、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問では、「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した割合が県を下回っている。 家庭と連携して使い方の指導をしていく必要性がある。
---------	---

オ 新型コロナウイルス感染症による児童の学習への影響について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	53.4	53.0	55.2
②	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	61.0	63.9	64.6
③	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	68.7	62.6	63.1
⑤	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったときどのようにしていましたか（複数選択）※分からないことを誰に聞いたのかをたずねた	先生 8.9 友達 32.9 家族 79.2 自分で調べた 56.9 そのまま 9.9	8.5 30.6 76.8 58.3 9.0	9.2 31.9 78.8 62.4 10.1

課題及び改善点	新型コロナウイルス感染拡大で学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送ることが出来た児童は全国・県の値を上回った。家庭の協力があつたと推測される。また、「学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったときどのようにしていましたか」の設問では、「家族に聞く」と回答した割合が全国・県と同様に高かった。
---------	--

3 中学校に関する調査結果の概要

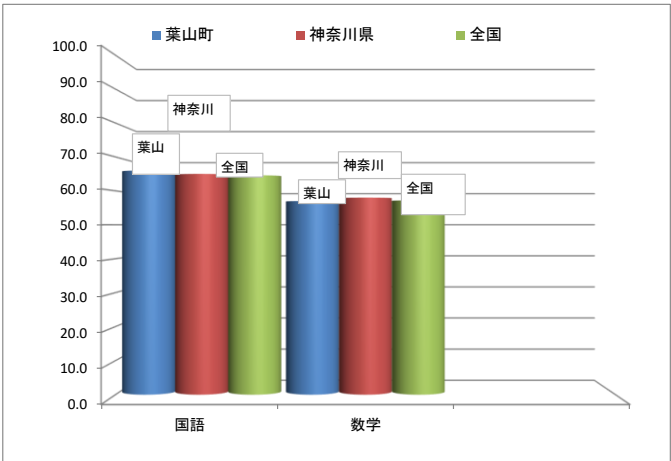
(1)教科に関する調査の結果

ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	66.0	65.0	64.6
数学	57.0	58.0	57.2

※平成31年度（令和元年度）より、英語（中学校のみ）は3年に1度の実施



- ・ 国語、数学の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較しても同程度と考えられる。
- ・ 国語は多くの設問で、全国・県と同程度の正答率であるが、「書く能力」という評価の観点では、全国・県に比べて平均正答率が上回っている。
- ・ 数学は、どの領域、観点とも全国・県とほぼ同程度の正答率であるが、「数学的な見方や考え方」の評価の観点と記述式問題形式で無回答率が全国・県を10%近く上回っている。

イ 国語

結果の概要	・ どの領域においても、全国・県と同程度の正答率である。基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られている。
話すこと 聞くこと	・ いずれの問題の平均正答率も、全国・県の平均正答率と同程度である。
書くこと	・ 「書いた文章を読み返し、語句や分の使い方、段落相互の関係に注意して書く」問題の平均正答率は、全国・県より上回っているが、全体的に正答率は低く課題があると考えられる。
読むこと	・ いずれの問題の平均正答率も、全国・県の平均正答率と同程度である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・ 「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題の平均正答率は、統計的有意差は認められないものの、全国・県の平均正答率を4ポイント近く下回っている。
今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・ 話し合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、目的に沿って、互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話し合いや議論、討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。また、実際の言語活動の中で活用しながら話し合うように指導することも重要である。 ・ 読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめることについて指導する必要がある。 ・ 文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。また、生徒の日常の読書活動に結びつくように指導することも有効である。 ・ 相手や場に応じた言葉遣いを理解し適切に使うために、敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解するように指導する必要がある。また、話や文章の中で相手や場に応じた語句を選んで用いることに留意するように指導することも大切である。

ウ 数学

結果の概要	どの領域でも「数学的な見方や考え方」という評価の観点では全国・県と同程度である。 ・ 「生徒質問紙」の「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対しては、「いろいろな方法を考える」という積極的な回答が認められるにもかかわらず、「説明しなさい」という問題において特に無回答の率が高い。
数と式	・ いずれの問題の平均正答率も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」問題では、平均正答率は全国・県と同程度であるが、無回答率の率が高いことが課題である。
図形	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 「条件を用いて説明する」、「記号を用いて説明する」等の問題において、全国・県より無回答の率が高い。
関数	・ 「数量や図形などについての知識・理解」の評価の観点では、平均正答率が全国・県より上回っているが、「数学的な見方や考え方」の評価の観点では、全国・県より下回っている。
資料の活用	・ いずれの問題の平均正答率も、全国・県の平均正答率と同程度である。ただ、「数学的な見方や考え方」の評価の観点では、全国・県より下回っている。

今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。 ・ 「説明しなさい」等の説明を求める問題で、無回答の率が高いことから、自分の言葉で表現する活動や、仲間の前で説明する機会を今以上に確保することが求められる。 ・ 数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動の充実を図る。 ・ ある条件の下で図形を動かしたとき、常に成り立つ事柄を見い出し、それを数学的に表現する活動の充実を図る。 ・ 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動の充実を図る。 ・ 日常生活や社会における問題を取り上げ、その問題の解決のために収集したデータの傾向を的確にとらえる活動の充実を図る。
----------	--

(2)生徒質問紙に関する調査の結果

<抽出項目について>

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」「ICTの活用」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。また、新型コロナウイルス感染症による生徒への学習への影響についても生徒質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	60.8	63.1	60.9
②	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.1	82.0	80.1
③	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	82.7	75.7	74.6
④	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか	86.8	77.9	77.0
⑤	数学の勉強は好きですか	67.0	60.2	59.1
⑥	数学の勉強は大切だと思いますか	76.4	82.7	84.1
⑦	数学の授業の内容はよく分かりますか	75.2	76.2	74.6
⑧	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	44.6	51.5	50.6
⑨	数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	71.1	75.3	75.8
⑩	英語の勉強は好きですか	60.3	59.1	56.7
⑪	1, 2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	62.4	67.9	67.7
⑫	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか	40.1	38.1	34.1
⑬	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	93.0	82.9	86.2

課題及び改善点

「～の勉強は好きですか」の設問は、国語より数学の方が好きと回答している割合が高いが、教科問題の平均正答率では、全体的に数学より国語の方がすべての設問において全国・県より高い。特に「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか」の設問では、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した割合は全国・県より8%高いが、「当てはまる」と回答した割合だけに注目すると全国・県より14%も高い。

「書くこと」「読むこと」について系統立てて計画的に指導してきた結果が今回の国語力の向上に繋がっている。そのため「～の授業の内容はよく分かりますか」の設問では、数学より国語の方が全国・県の平均回答率より高い。

数学に関する設問では、「数学の勉強は好きですか」の回答率は全国・県より約7%高くなっている。授業の中で生徒の主体的な学びが保証されていると考えて良いのではないかと。

「道徳の授業では、自分が考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問で、全国・県より10%近く高い。「考え、議論する道徳」を意識した道徳の授業づくりを進めてきた効果が表れているとみられる。

イ 学びに向かう力に關わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、良いところがあると思いますか	78.5	75.8	76.2
②	将来の夢や目標を持っていますか	68.6	65.5	68.6
③	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	67.4	63.1	65.9
④	人が困っているときは、進んで助けていますか	91.8	87.2	88.5
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.3	94.2	95.9
⑥	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.1	93.8	95.0
⑦	学校に行くのは楽しいと思いますか	83.4	80.6	81.1
⑧	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	77.7	75.0	75.2
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.9	74.0	74.7
⑩	友達と協力するのは楽しいと思いますか	93.0	92.7	93.3
⑪	地域や社会をよくするために何をなすべきかを考えることがありますか	50.8	40.8	43.8
⑫	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	86.4	81.1	81.0
⑬	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	78.9	67.0	62.0
⑭	学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	87.6	75.7	77.8
⑮	学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.9	74.5	77.6
⑯	1、2年生のときに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	66.9	72.0	74.3
⑰	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	73.1	79.6	75.3
⑱	解答時間は十分でしたか（数学） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	83.5	84.5	80.5

課題及び改善点	「1、2年生の時に受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の設問では全国・県より下回っている。正確に生徒の実態把握をし、身につけさせたい力を明確にした学習活動の工夫、改善に努めていくことが大切である。 また、数学で学習したことを「普段の生活の中で活用できないか考えるか」との設問での「あてはまる」の値が低い。学んだことが実生活といかに結びついているかが実感できる様な場をさらに授業の中に落とし込みたい。 一方、多くの設問において、全国・県の割合を上回っており、自己肯定感や生徒の規範意識、学習意欲、社会への参加意欲が高いことがわかる。「地域や社会をよくするために何をなすべきかを考えることがありますか」の問いに対して「そう思う」と答えた生徒が全国・県平均より10%以上高くおり、これは特筆すべき結果である。日常より地域と連携してきた葉山の各中学校の取り組みの成果と思われる。 また、「話し合い活動」への取り組みや、授業後の「振り返り」の確実な実施の成果と思われる。
---------	---

ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	92.5	91.3	92.8
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	81.0	76.3	79.8
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.0	90.6	92.7
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしめますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	23.5	26.2	28.9
⑤	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	67.8	64.1	63.5
⑥	学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしめますか ※「1時間以上」と回答した割合	82.6	79.6	75.9
⑦	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしめますか ※「1時間以上」と回答した割合	85.1	76.3	77.6

課題及び改善点	生活習慣では、ほとんどの家庭で規則正しい生活を送っている様子が窺われる。家庭学習の様子に注目すると、本町は全国・県より読書時間が少なく、勉強時間が多い（平日・休日とも）傾向が見えてくる。
---------	---

エ ICTを活用した学習状況について

(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしめますか ※2時間以上と回答した割合	56.2	59.6	57.0
②	1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週に1回以上」と回答した割合の合計	34.7	33.8	33.4
③	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか ※「ほぼ毎日」「週に1回以上」と回答した割合の合計	76.9	39.8	34.8
④	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	93.0	93.0	93.2
⑤	普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか ※1時間以上と回答した割合	28.9	23.3	19.5

課題及び改善点	ICT機器の活用頻度については、全国・県平均を倍近く上回っている。 また、「1、2年生のときに受けた授業でコンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」と「あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の設問を比較すると、倍以上高い。これは、ICT機器の、1・2年時と現在の活用状況の差を表している。 3年生が昨年度から先行的に一人一台のタブレットを活用した授業を行って来た成果であると考えられる。 全体として、各校で積極的に授業で活用している実態が見えてきた。今後は、タブレットの有効な活用方法の研修を通して、さらなる教員のスキルアップを図っていく必要がある。
---------	--

オ 新型コロナウイルス感染症による生徒の学習への影響について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	70.7	62.1	62.8
②	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	35.1	38.1	37.6
③	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	48.8	45.4	40.4
④	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったときどのようにしていましたか（複数選択）※誰に聞いたのかをたずねた	先生	7.9	8.7
		友達	54.5	48.9
		家族	46.3	44.9
		自分で調べた	64.0	59.8
		そのまま	11.2	14.3

課題及び改善点	「新型コロナウイルス感染症拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」の設問では、不安を感じていた割合が全国・県より8%高かった。また、休校中は規則正しい生活ができていたものの計画的に勉強を進めることは難しかった様子が見られた。 学校からの課題で分からないときには「どのようにしていましたか」との質問については、中学生は「友達に聞く」の割合が、全国・県より6～10ポイント高かった。 一方、小学生では「家族に聞く」の値が一番高かった。 中学生は小学生よりも、友達との関係性が深くなり、友達同士で助け合い教え合うことが多いことが、数値上でも明らかになった。
---------	--